

第4章 富士宮市における防災研修及び災害時の実態等

1. はじめに

当センターでは、平成18年度から、市町村長、市町村防災担当職員、その他防災関係者の危機管理能力の向上を目的とした市町村防災研修事業を行っている。実践に役立つ防災研修を持続的に行うためには、防災訓練及び実際の災害対応を経験された市町村からの意見を多角に調査し、その結果をより実効性の高い研修に反映していく必要がある。

平成23年3月15日(火)22時31分頃に静岡県東部の深さ約15kmでマグニチュード6.4の地震(以下3.15地震と略す)が発生した。富士宮市内では、市が始まって以来、かつて経験のない最大震度6強を記録した。東日本大震災の数日後に発生したことや、想定東海地震の想定震源域の近くで発生したことなどから、大きな緊張感の中で行政対応が行われていたであろう。このような「想定内」の地震に対して、どのような防災研修が役立つかを考察することは、今後のいつか襲うであろう「想定外」大地震に対する防災研修の在り方を考え、知見を得るための減多にない機会を与えてくれる。

そこで、本調査は、「事前の備え」・「災害時の実態」・「今後の防災研修」という時間軸に視点をおき、静岡県富士宮市における防災研修の実施状況や、3.15地震時の対応実態及び、今後の防災研修の在り方等についての意見を把握することを目的に実施した。

2. 調査概要

上記目的が達成できるように、現地訪問による聞き取り調査及び郵送によるアンケート調査を行った。それぞれの概要は次のとおりである。

(1) 現地訪問による聞き取り調査

- ・対象：富士宮市総務部防災生活課 防災危機管理係 2名
- ・時間：平成23年6月28日 13:30～15:00

(2) 郵送によるアンケート調査

- ・対象：富士宮市役所全職員 989名
- ・配布方法：郵送配布(平成23年7月19日)
- ・回収方法：投函回収(平成23年8月4日～8月19日)
- ・回収数：800部(回収率：81%)